

# Raw Silk Trade at the Port of Yokohama



上州座繰器 1927(昭和2)年撮影  
江戸末期から、上州(現在の群馬県地域)で使われていた家内製の製糸器械。湯を張った鍋に繭(まゆ)を入れ、そこから細い数本の繭糸(けんし)を手で取って、1本の生糸に紡いで歯車で巻き取っていく。  
市立岡谷蚕糸博物館蔵

## 企画展 横浜港と生糸貿易

横浜開港後、生糸の輸出が始まり、日本の経済を支える主力輸出品となっていきました。生糸は、東北地方、北関東、甲信越などをはじめ各地方で生産され、横浜に運ばれて輸出されました。横浜港からの生糸の輸出拡大は、生産地の生産方法、設備の拡大などに大きな変動をもたらし、あわせて横浜と生産地を結ぶ交通の整備、横浜と生産地との人のネットワークの形成を促しました。

この企画展では、開港から昭和戦前までを中心に、生糸生産、輸出を通じて横浜港と生糸生産地が、お互いに影響し合いながら変化してきた過程を紹介していきます。



横浜市中に於て外国人人生糸を見分る図 半山直水 明治初期  
外国人商人が、売込商の店頭で、生糸の見本を検分している様子。横浜に運ばれた生糸は、日本人の売込商を通して輸出された。横浜開港資料館蔵

生糸ラベル 大日本上野国富岡製糸所 原合名会社 明治末期  
生糸ラベルは輸出する生糸の束に付けられた商標。絵柄の富岡製糸場は、1872(明治5)年、国が最初に設置した模範製糸工場で、1902(明治35)年に横浜の原合名会社に譲渡された。当館蔵



山梨県甲府勤業場之図 歌川国輝

1874(明治7)年頃  
山梨県勤業場は、1874(明治7)年、山梨県が現在の甲府市に設立した県営の器械製糸場。その規模は、官営の富岡製糸場に次ぐ大きさだった。当時、国の殖産興業政策で各地に勤業場が設置された。  
山梨県立博物館蔵



Raw Silk Loading at No. 4 Quay in the Port of Yokohama.  
投荷繰生をけ於に塋岸第四埠港濱横

絵葉書 横浜港第四号岸壁に於ける生糸荷役 1929(昭和4)年  
新港頭4号岸壁で輸出用生糸の船積み荷役をしている。当館蔵

### ◎帆船日本丸総帆展帆 4月15日(日)

今後の展覧会  
企画展「日本の客船ポスター展2」(仮称)  
10月6日(土)~11月25日(日)  
明治時代から現在までの日本の客船の変遷をポスターを通じて紹介します。



交通: JR根岸線・市営地下鉄ブルーライン 桜木町駅下車徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車徒歩5分

### 記念シンポジウム「横浜港の生糸貿易と生糸産地」

日時=3月20日(火・祝) 14:00~16:00  
講師=内海 孝氏(東京外国語大学教授)  
今井 竜五氏(岡谷市長)  
増田 廣實氏(交通史研究会前会長)  
田島 健一氏(ぐんま島村蚕種の会会長)  
速水 美智子氏(富岡製糸場第2代所長 速水 堅曹の末裔)  
会場=日本丸訓練センター第1教室  
(横浜みなと博物館隣)

定員=100人 参加費=500円  
締切=3月10日(土)(必着)

### ミナト散歩 生糸編 一原三溪と生糸貿易ゆかりの地を歩く

日時=3月24日(土) 9:30~15:30  
ガイド=原三溪市民研究会  
集合=横浜みなと博物館入口前  
対象=高校生以上 定員=30人  
参加費=1人500円(傷害保険料含む)、昼食代別  
締切=3月14日(水)(必着)

申込方法=往復はがきに住所、氏名、電話番号、行事名を明記して、横浜みなと博物館まで申し込んでください。いずれも申込者多数の場合は抽選とさせていただきます。

フロアガイド 日時=3月3日(土)、3月17日(土)、4月7日(土) 各日 ①11:00 ②14:00 ※各回約30分  
場所=横浜みなと博物館特別展示室 参加費=無料 ※但し常設展示、もしくは企画展の入館料が必要です。

**横浜みなと博物館**  
Yokohama Port Museum  
〒220-0012 横浜西区みなとみらい2-1-1  
帆船日本丸記念財団・JTB法人東京共同事業体  
TEL045-221-0280 FAX045-221-0277  
http://www.nippon-maru.or.jp/